# 倶多楽火山

## ○大正地獄の熱泥水噴騰活動

2007年５月３日夕刻から４日早朝の間に始まった大正地獄での熱泥噴騰活動は，噴騰周期や規模の変動を示しながら現在まで継続している．この大正地獄における一連の噴騰活動は，足かけ３年にわたって続き，登別地獄谷地域で知られている地熱異常活動のなかで最も継続期間の長い活動かもしれない．

今年の２月から４月中旬までは４日前後の周期で噴騰活動を繰り返していたが，4月15日から20日にかけて，一日弱の短い周期で小さな噴騰を繰り返した後，休止期間がこれまでになく長くなった．

長い休止期直後に再開する噴騰はやや規模が大きく，その後は２日弱の間隔で小さな噴騰が数回繰り返えされた．５月中，このような活動が続いたが，６月２ー３日には熱水流出が続いたものの噴騰に至らなかった．その後，現在ま（で6月７日），噴騰活動は観測されていない．休止期間が長くなったことや，熱水流出のみの活動が観測されたことは，一連の活動の終息を伺わせる．その一方，2007年５月の最初の噴騰活動に先行して上昇した日和山噴気孔の温度は依然として高温な状態にあること，これまでにも休止期間は変動しており，終息を判断するためには今後の推移を見守る必要がある．

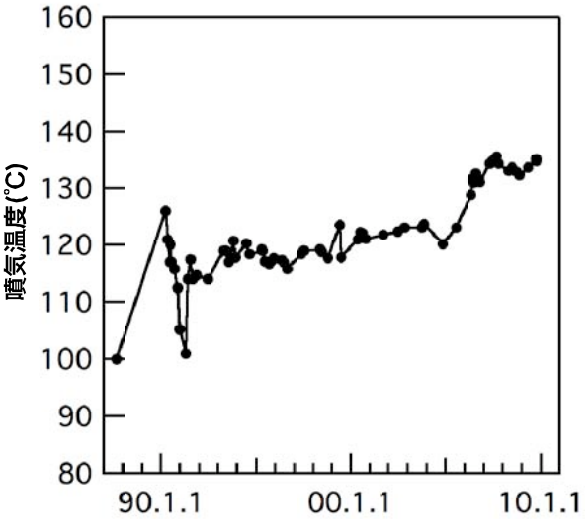


図１．日和山噴気孔の温度変化

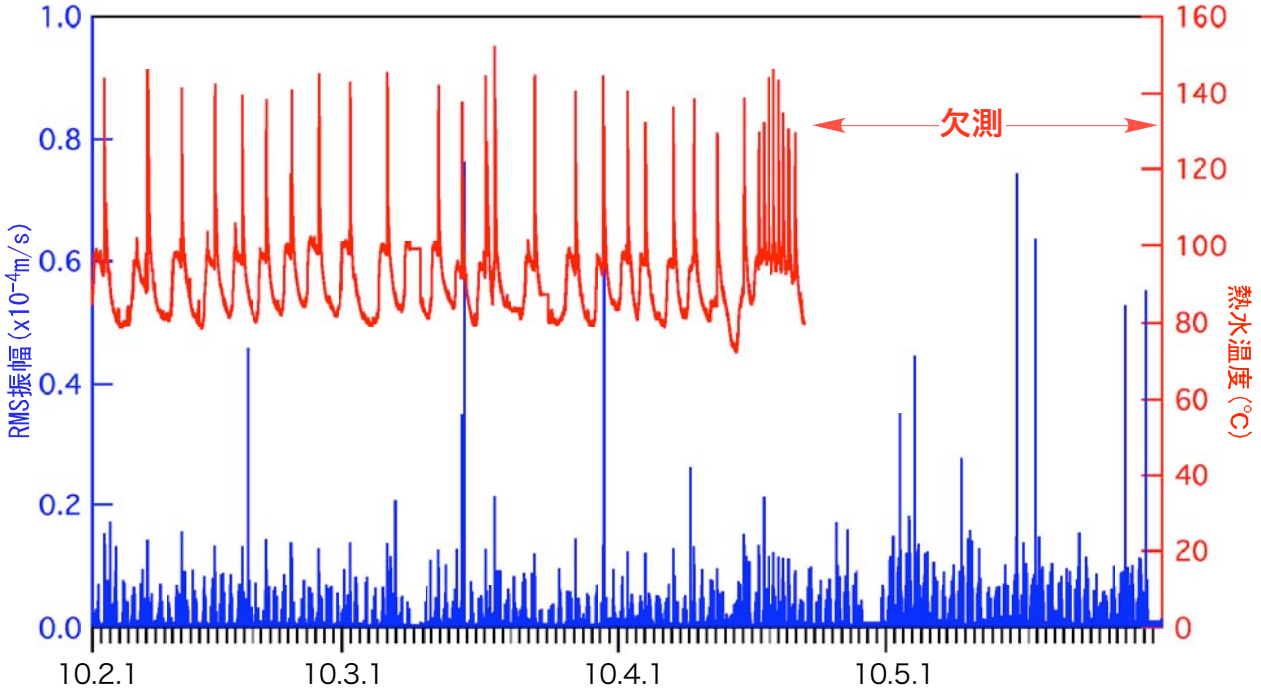


図１．大正地獄内の熱水温度(赤)と１分間の上下動RMS地動振幅(青)の2010年２月１日から2010年５月31日までの時間変化．温度計設置深度は満水面下約5mである．

（大島・前川・安孫子）　　倶多楽火山